

第1章 第3次計画の策定に向けて

1 子どもをとりまく環境について

子どもを取り巻く環境は、ここ数年で激変しています。子どもたちはパソコン、スマートフォンからインターネットを通じ、手軽に情報を得ることができるようになってきました。主に本や雑誌等の紙媒体を通じて情報を得ていた時代とは環境が変わってきています。そのような中、小学校・中学校・高等学校と進むにつれて読書時間が減少していく傾向があります。

小学6年生と中学3年生を対象とした全国学力・学習状況調査を見ると、小学6年生の「平日の1日の読書量が10分以上の児童」が、平成28年度、鎌倉市では70.1%だったのが、中学3年生では、55.4%と減少しています。また、「学校図書館や地域の図書館に月1回以上行く児童」の項目では、小学6年生が38.5%であるのに対し、中学3年生では、18.7%と減少しています。しかしながら、鎌倉市の小学6年生、中学3年生のいずれも、読書が好きと答えた割合が7割を超えていることから、興味はあるが時間がないという実態が見え、短い時間でも、読書をする環境を整える必要があると考えます。

全国大学生協連の第52回学生生活実態調査によると、平成28年には、大学生の約5割が、1日の読書時間が0分になったとのこと。また、平成16年以降、常に2割前後存在した1日の読書時間が60分以上の割合も19.1%まで減少しています。近年、スマートフォンなどの個人携帯の電子機器の普及が目覚ましいものがありますが、大学生のスマートフォンの1日の利用時間の平均は、前年より5.6分増え、161.5分となっており、利用時間「0」分は1.3%に過ぎず、ほぼ全員が利用しているという実態があります。

調査では、大学生の読書時間が減少しているのは、アルバイト時間が増加しているのも一因ではないかと指摘しています。同様に、中学3年生で減少しているのは、部活動や、習い事、塾などに割く時間が増え、読書に割り当てる時間が減っているのが一因であると考えます。

近年、電子書籍も次々に出版されています。身近で使用しているスマートフォン等を通じて電子書籍に触れることは、読書を始めのきっかけにもつながります。とりわけ、障害のある子どもや日本語を母語としない子どもにとっては、音声の読み上げ、文字の拡大、翻訳などの機能を使用することによって、自由で自主的な読書環境の向上に役立っています。一方、有害図書が簡単に閲覧できる点やゲーム依存症という問題も顕在化してきているので、今後の推移については十分留意する必要があります。

【小学6年生】（全国学力・学習状況調査より）

	平日の一日の読書量が 10分以上の児童の割合			学校図書館や地域の図書館に 月1回以上いく児童の割合			読書がすき		
	全国	神奈川県	鎌倉市	全国	神奈川県	鎌倉市	全国	神奈川県	鎌倉市
平成25年	63.1	59.6	65.1	34.3	30.3	41.7	72.2	69.5	71.5
平成26年	64.9	63.3	68.4	42.9	30.2	41.1	73.1	70.9	72.8
平成27年	64.2	62.6	65.8	40.7	29.5	36.3	72.8	70.8	72.0
平成28年	63.6	62.2	70.1	40.4	30.9	38.5	74.7	73.4	75.0

【中学3年生】（全国学力・学習状況調査より）

	平日の一日の読書量が 10分以上の生徒の割合			学校図書館や地域の図書館に 月1回以上いく生徒の割合			読書がすき		
	全国	神奈川県	鎌倉市	全国	神奈川県	鎌倉市	全国	神奈川県	鎌倉市
平成25年	51.7	48.1	58.4	20.8	15.1	20.3	70.0	66.6	66.9
平成26年	53.4	49.5	53.2	18.9	14.1	21.3	69.5	64.2	66.4
平成27年	52.2	47.1	54.7	20.2	13.9	21.0	67.9	61.8	67.2
平成28年	50.0	45.1	55.4	18.8	14.3	18.7	70.0	74.6	71.5

【大学生の1日の読書時間】（第52回学生生活実態調査）

	0分	10分未満	10分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上
平成25年	40.5	1.8	16.2	20.7	14.7	5.0
平成26年	40.9	0.8	9.8	21.1	18.1	7.5
平成27年	45.2	0.9	9.7	20.0	16.4	6.9
平成28年	49.1	1.0	10.8	18.7	14.1	5.0

（すべて単位は％）

＊学生生活実態調査

この調査は、大学生の生活や意識、行動を明らかにし、大学生の生活をより充実したものにするために昭和38年から行っている。第52回調査は、全国の国公立及び私立大学の学部学生を対象に平成28年10月から11月にアンケートを実施した。

2 第3次計画策定について

鎌倉市では、平成20年2月に「鎌倉市子ども読書活動推進計画」（以下「第1次計画」という。）を策定し、子どもの読書活動の整備と推進のためにさまざまな取組を行ってきました。

第1次計画では、市民協働事業やブックスタート事業、学校や地域への訪問サービス、小中学校への学習パックの貸出・搬送や小学校全校に学校図書館専門員の配置など、一定の成果は得られましたが、学校図書館の蔵書データ化や読書活動がしにくい子どもへの支援等は引き続き取り組む課題として明らかになりました。

第2次計画（平成25年2月策定）では、読書活動がしにくい子どもへの支援として、手話付きおはなし会を開催し、また、学校への支援としての学習パックや子ども読書パックの貸出は、内容を充実したことにより、さらなる支援を行うことができ、利用する学校が増加しました。また、鎌倉市立小中学校図書館運営連絡協議会において、蔵書データ化に取り組んでいます。

第3次計画では、第2次計画の取組事業を発展させた5つの重点事業を定め、計画を推進していきます。

※下線の用語については、資料編をご覧ください。

3 計画の位置づけ

- (1) この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年）」第9条の規定に基づいて策定された国の基本的な計画や県の推進計画を基本とし、鎌倉市がこれまで実践してきた活動の成果を踏まえ、策定します。
- (2) この計画は、「第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画後期実施計画」「鎌倉市子ども・子育てきらきらプラン～かまくらっ子をみんなで育てよう！」「かまくら教育プラン」「鎌倉市図書館サービス計画」など、他の行政計画とも整合を図り、計画を策定します。
- (3) この計画は、第2次計画の基本的な考えを継承し、取組事業について検証し、成果と課題を整理し、施策の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえ、今後の5年間の子どもの読書環境の整備のために、策定します。

4 計画の対象者

この計画の対象は、0歳からおおむね18歳までの子どもとその保護者、子どもの読書活動推進に関わるボランティア・教職員・行政の関係者などとなります。

5 計画の期間

第3次計画は、平成30年度から平成34年度までの5年間を計画の期間とし、必要に応じて、鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議において、検証・評価を行い、その課題に応じて見直しを行います。

6 年代や生活環境にあわせた取組

【乳幼児期への取組】

絵本やわらべうたを楽しめる時期

乳幼児期は、0歳～6歳までの時期です。この時期の子どもたちには、絵本やわらべうたが心の栄養となるので、日常生活に積極的に読書活動を取り入れていくことが大切です。今後も、図書館・幼稚園・認定こども園・保育園・行政が連携して取り組んでいきます。

【児童期への取組】

ストーリー性のあるものを楽しめる時期

児童期は、小学校の時期です。この時期の子どもたちは、ストーリー性のあるよみものを読む時期なので、子どもたちの読書意欲を高め、読書環境の整備に努めます。

【青年期への取組】

より深く読書を楽しめる時期

青年期は、中学校・高等学校の時期です。この時期は、勉強とスポーツ等、活動が活発な時期であり、興味・関心のあることには積極的に関わることが多くなります。このようなニーズを把握しつつ、読書の機会を増やせるよう、図書館資料の収集を充実します。

7 推進体制

この計画を具体的に推進していくために設置した「かまくら読書活動支援センター」と「鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議」（以下「連絡会議」という）を引き続き充実していきます。